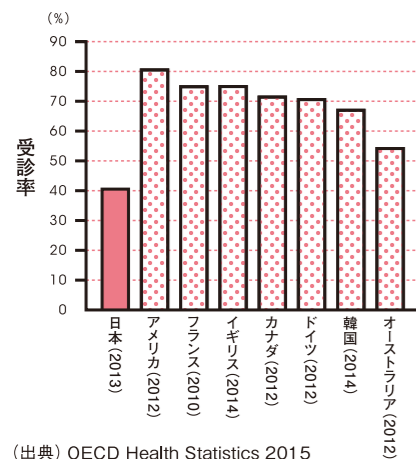


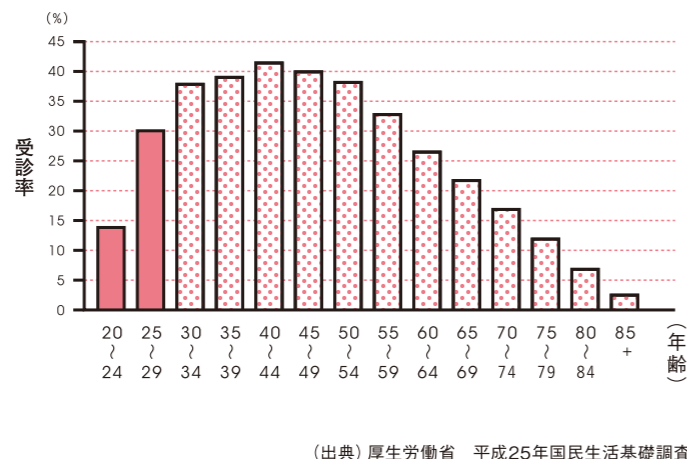
子宮頸がん検診の場合、米国では80%以上の女性が受けているのに、日本では40%程度です。特に、20歳代前半の女性で子宮頸がん検診を受けているのは14%ほどで、極めて低い状況です。子宮頸がんは20代・30代に急増中であるため、このような年代から子宮頸がん検診を受けるべきです。

先進国の子宮頸がん検診受診率
(20~69歳)

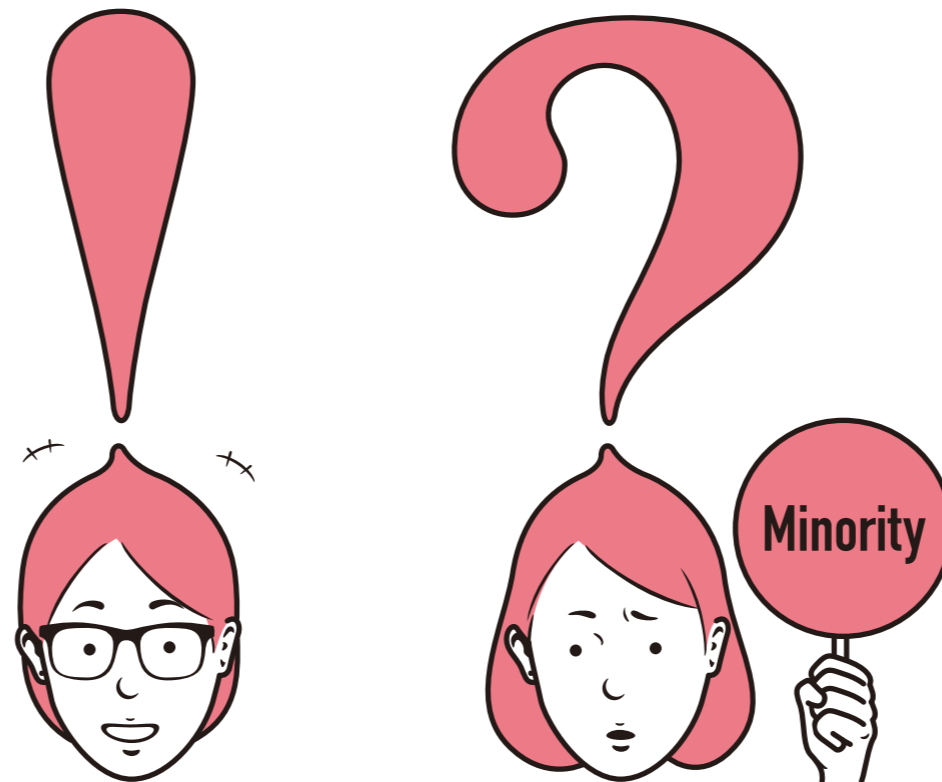


(出典) OECD Health Statistics 2015

日本人女性における子宮頸がん検診の年齢別受診状況
(過去1年間の受診状況)



(出典) 厚生労働省 平成25年国民生活基礎調査



20代、30代で
子宮頸がんになるのは、
少数派なのでは？

子宮頸がんの原因はウイルスの持続的な感染で、若い人に増えています。一般的にがんは、年齢とともに発症数が増えますが、子宮頸がんは20代や30代で増加傾向にあります。早期がんでは症状は出ないので、検診が必要です。